

新島基金による新島講座について

同志社創立百周年記念事業の一環として同記念事業寄付金の一部により新島基金が設立されました。

○新島基金の目的

新島基金は、同志社立学の精神にもとづき、人間教育を強化し、教育内容の高度化を図り、教育、研究の国際交流を推進し、もって一国の良心たがりうる人材の育成に資することを目的とし、

基金の果実をもって (1)新島講座の開設 (2)新たな奨学制度の開設 (3)教育・研究の国際交流の推進などを行うことになっております。

○新島講座

新島講座は、つねに時代を先導する同志社の教育と研究が、更に一層充実、発展し、またその成果が社会の進展に寄与するようにと願って新島基金の目的事業の一つとして設立されたものであり、内外の碩学を招聘し講演会などを開催する講座と、本学園教職員がその研究成果を発表する東京講座の二種類を毎年開催することになっています。

○第六回新島講座

中国より丁光訓博士を迎えて

中国キリスト教界の最高指導者である丁光訓博士を迎えて、第六回新島講座が、去る九月二十八日午後二時三十分から同志社大文学館チャペルで開かれた。丁博士（南京大学副学長、中国基督教協会主席）は戦後はじめの中国のキリスト教界の代表団（二〇名）の団長として来日され、「新しい中国におけるキリスト者の証言」と題して、一時間三十分わたって、感銘深い講演をされた。長い外国の圧迫や文化大革命時の苦難を耐え忍んで、いまや新憲法（一九八二年）の下に信教の自由を獲得して生き生きと礼拝を守っている状況について証しをされ、その活動の基盤に三自（自治、自養、自伝）愛国運動のあることを指摘された。

一九七九年に中国を訪れたグリーククラブが中国の美しい讚美歌をうたい、同志社で学んでいる中国からの留学生六人の留学生

から花束が贈呈されたり、日中の交流の新しい出発を象徴するような盛り上った雰囲気の中で講演会で、会衆は約三〇〇名であり、きわめて盛会であった。

(グラビアページに講演模様を掲載)

○第七回新島講座

十月十五日(月)・十六日(火)・十七日(水)の三日間にわたって、ヨーロッパにおける言語学の第一人者であり、その広い視野と学殖に支えられた数々のすぐれた業績を通して、すでに斯界の碩学として定評のある、英国、ロンドン大学(SOAS)教授・言語学部長、ロバート・ヘンリー・ロビンズ博士を迎え、公開講演会及びセミナーが開催されました。

○われわれは言語をどう捉えてきたか
十月十七日(水) 午後一時三十分
於、同志社女子大学心和館三〇一番教室(三階)

セミナー

○言語学と外国語教育

十月十五日(月) 午後四時

於、同志社女子大学デントン館会議室(地階)

○言語学——現状と展望

十月十六日(火) 午後四時

於、同志社大学寧静館会議室(四階)

○これからの新島講座

十一月十七日(土) 午後一時三十分

於、東京・ヤマハホール(中央区銀座七丁目九—十四)で次の通り公開講演会が開催される予定です。

○「最近の医療問題(安楽死、尊厳死、脳死他)と法律」

同志社大学法学部教授 大谷 實氏

○「新島襄と科学」

同志社大学工学部教授 島尾 永康氏